第２章　障がい者を取り巻く現状

１　人口の推移

２　障がい者（児）の推移

1　人口の推移

令和２年３月末における高岡市の人口は、169,530 人で、年々減少傾向にあります。

年齢構成でみると、年少人口（15 歳未満）と生産年齢人口（15～64 歳）がともに減少している一方で老年人口（65 歳以上）は増加しており、少子高齢化が進んでいます。

また、世帯数（68,925 世帯）は増加し、１世帯当たりの人員（2.46 人）は、減少傾向にあります。

人口、世帯数の推移　　（各年３月末現在）　　単位：人

	平成27年	平成28年	平成29年	平成30年	令和元年	令和２年
人　口	175,061	174,492	173,425	172,542	171,174	169,530
年少人口（0～14 歳）	20,176	19,788	19,380	19,113	18,748	18,274
生産年齢人口（15～64 歳）	100,771	99,588	98,345	97,511	96,316	94,922
老年人口（65 歳以上）	54,114	55,116	55,700	55,918	56,110	56,334
世　帯　数	66,462	67,277	67,857	68,342	68,575	68,925
1 世帯あたり人員	2.63	2.59	2.56	2.52	2.50	2.46

資料：庁内資料

2　障がい者(児)の推移

（１）身体障がい者（身体障害者手帳所持者）

令和２年４月１日現在、身体障害者手帳の交付を受けている人は、6,768 人で、年々減少傾向にあります。

種類別でみると、肢体不自由が 3,048 人で全体の約半数を占め、次いで内部障がい、聴覚障がい、視覚障がいの順になっています。内部障がいのうち腎臓機能等が増加傾向にあります。

等級別でみると、障がいが重度の１級が 1,961 人で一番多く、次いで４級、３級、２級の順になっています。

①種類別

（各年４月１日現在）　　単位：人

種　類		平成 27 年	平成 28 年	平成 29 年	平成 30 年	令和元年	令和２年
視覚障がい		516	487	477	468	459	458
聴覚障がい		779	738	740	725	706	716
平衡機能障がい		10	8	8	8	9	10
音声・言語・そしゃく機能障がい		98	97	99	101	98	93
肢体不自由		3,523	3,362	3,319	3,235	3,131	3,048
内部障がい	心臓機能	1,509	1,487	1,499	1,489	1,486	1,503
	腎臓機能	461	469	500	502	501	519
	呼吸器機能	94	95	95	83	75	73
	ぼうこう・直腸機能	318	312	305	310	316	318
	肝臓機能	7	9	13	13	14	15
	その他	9	12	12	12	14	15
	小計	2,398	2,384	2,424	2,409	2,406	2,443
合計		7,326	7,076	7,067	6,946	6,809	6,768

資料：庁内資料

②等級別

（各年４月１日現在）　　単位：人

等級	平成 27 年	平成 28 年	平成 29 年	平成 30 年	令和元年	令和２年
１級	2,127	2,053	2,075	2,008	1,968	1,961
２級	1,090	1,056	1,043	1,018	1,010	988
３級	1,513	1,483	1,482	1,475	1,453	1,430
４級	1,654	1,583	1,568	1,566	1,534	1,527
５級	397	386	381	372	355	356
６級	545	515	518	507	489	506
合　計	7,326	7,076	7,067	6,946	6,809	6,768

資料：庁内資料

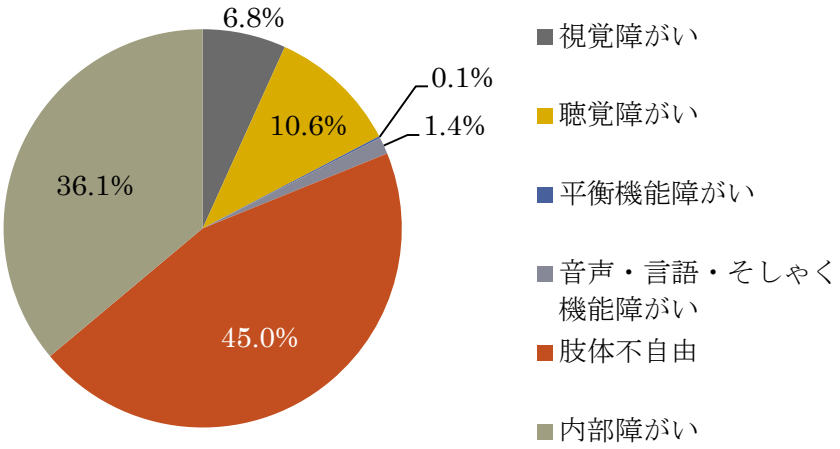
③年齢別

（各年４月１日現在）　　単位：人

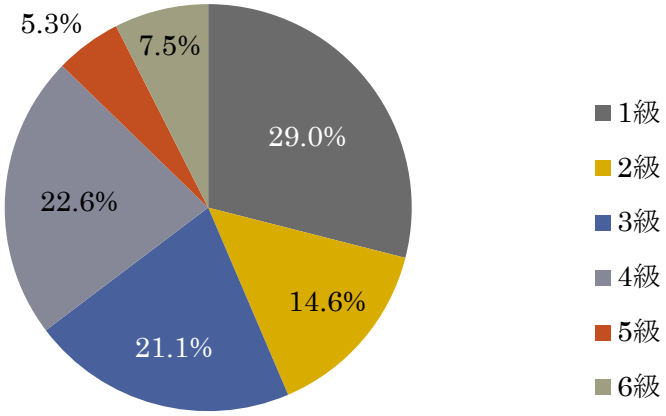
年齢別	平成 27 年	平成 28 年	平成 29 年	平成 30 年	令和元年	令和２年
18 歳未満	112	115	108	110	107	103
18 歳以上 65 歳未満	1,677	1,618	1,565	1,522	1,487	1,448
65 歳以上	5,537	5,343	5,394	5,314	5,215	5,217
合　計	7,326	7,076	7,067	6,946	6,809	6,768

資料：庁内資料

身体障害者手帳所持者の障がい部位別割合（令和２年）

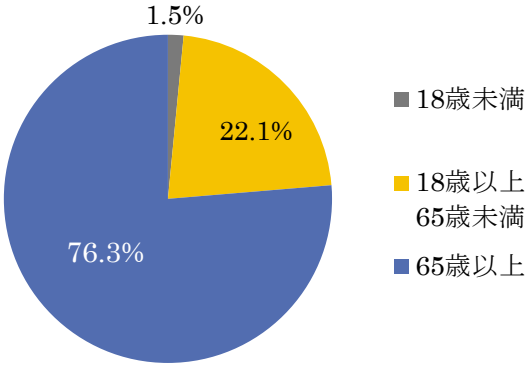


身体障害者手帳所持者の等級別割合（令和２年）

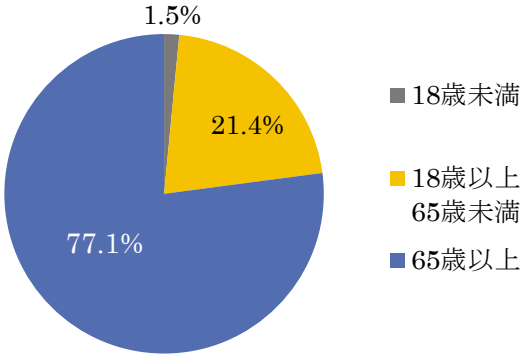


身体体障害者手帳年齢別割合（平成 29 年　→　令和２年）

平成 29 年



令和 2 年



（２）知的障がい者（療育手帳所持者）

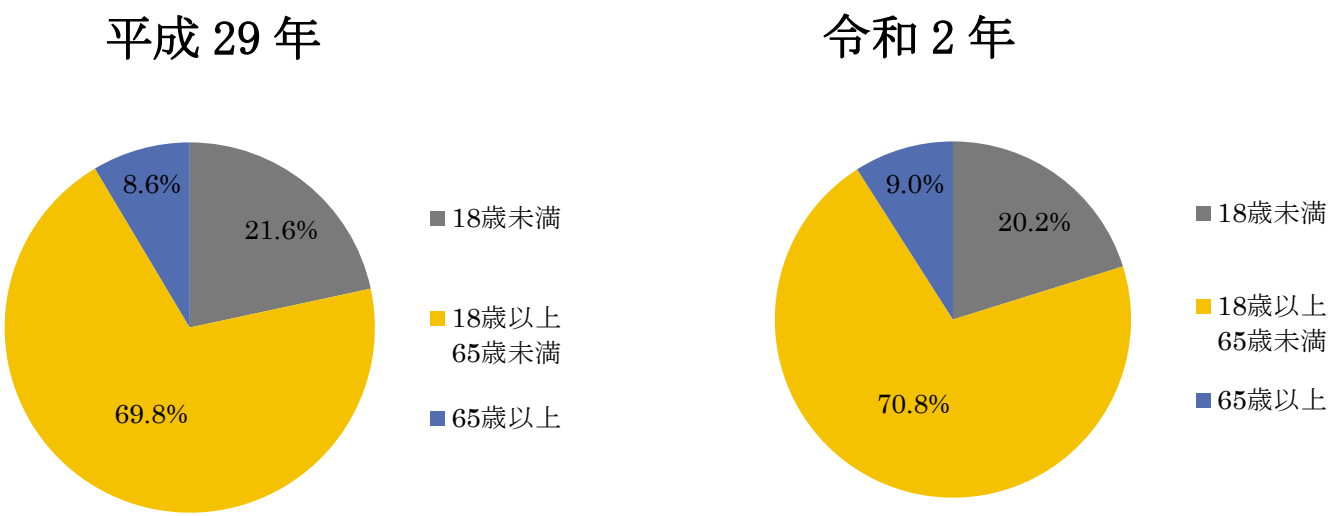
令和２年４月１日現在、療育手帳の交付を受けている知的障がいの人は 1,338 人で、年々増加傾向にあります。

（各年４月１日現在）　　単位：人

年齢	判定	平成 27 年	平成 28 年	平成 29 年	平成 30 年	令和元年	令和２年
18 歳未満	A	61	59	52	58	59	68
	B	197	211	221	225	210	202
	小計	258	270	273	283	269	270
18 歳以上 65 歳未満	A	338	348	361	366	373	377
	B	503	509	520	537	553	570
	小計	841	857	881	903	926	947
65 歳以上	A	57	53	55	55	55	55
	B	57	52	53	58	61	66
	小計	114	105	108	113	116	121
全体	A	456	460	468	478	487	500
	B	757	772	794	821	824	838
	合計	1,213	1,232	1,262	1,299	1,311	1,338

※Ａは重度、Ｂは軽中度　　資料：庁内資料

療育手帳年齢別割合（平成 29 年　→　令和２年）



（３）精神障がい者（精神障害者保健福祉手帳所持者）

令和２年４月１日現在、精神障害者保健福祉手帳の交付を受けている人は 1,117 人で、年々増加傾向にあります。

また、通院にかかる医療費の公費負担を受けている人（手帳の交付を受けていない人も精神疾患の診断を受けることで対象となる。）は 1,959 人であり、手帳と同様に増加していることから、精神疾患がありながら手帳を取得していない人は多くいるものと考えられます。障がいが重度の１級は 58 人で、２級は 750 人と最も多く、67.1%を占めています。

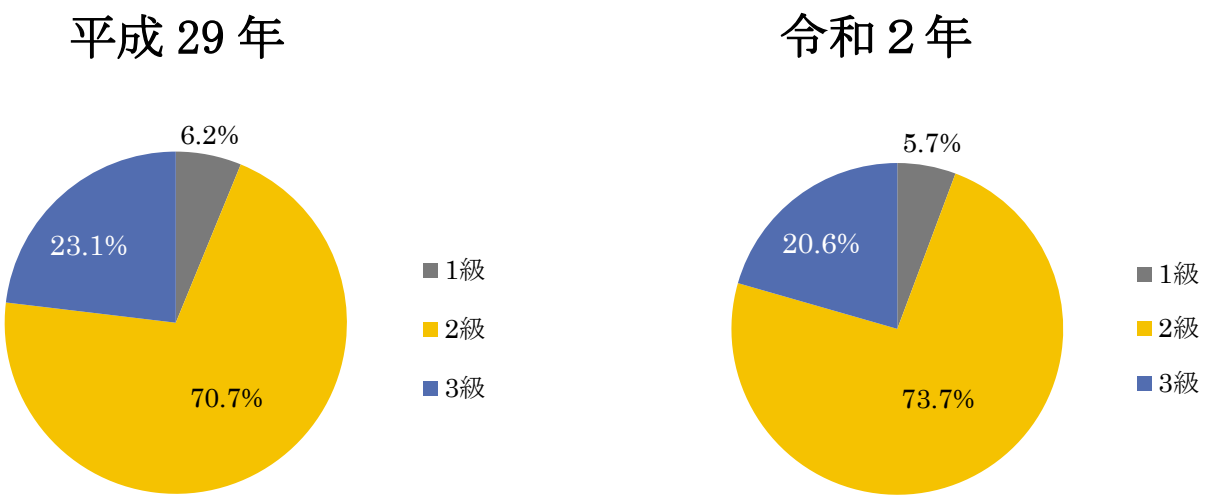
（各年４月１日現在）　　単位：人

等級	平成 27 年	平成 28 年	平成 29 年	平成 30 年	令和元年	令和２年
１級	57	58	55	65	64	58
２級	539	593	627	647	695	750
３級	179	193	205	242	274	309
合計	775	844	887	954	1,033	1,117
通院人数※	1,655	1,687	1,747	1,821	1,878	1,959

資料：庁内資料

※障害者総合支援法に基づき、自立支援医療（精神通院医療）の支給を受けている人数

精神障害者保健福祉手帳等級別割合（平成 29 年　→　令和２年）



（４）障がい児の状況

障がい児は、18 歳未満の市内人口 22,678 人のうち 566 人（2.5%）となっています。障がい種別にみると知的障がい児が最も多くなっていますが、発達や社会性の遅れ等により障がいの手帳を取得しないで障がい児通所支援を利用している人もいます。

また、市立小学校・義務教育学校前期課程に通学する児童 7,425 人のうち、特別支援学級に在籍する児童数は 255 人です。市立中学校・義務教育学校後期課程では、生徒数 3,900 人のうち、84 人が特別支援学級に通学しています。

特別支援学級は、市立各小学校・中学校・義務教育学校において、少人数の学級編成のもと、個々に応じた指導を行い、地域社会に適応し社会的自立ができるよう児童・生徒の教育的ニーズに合った教育を行う学級です。市内全ての小学校及び義務教育学校と 11 校中 10 校の中学校に設置されています。学級種別にみると、「知的障がい」、「自閉症・情緒障がい」の学級が多く設置されています。

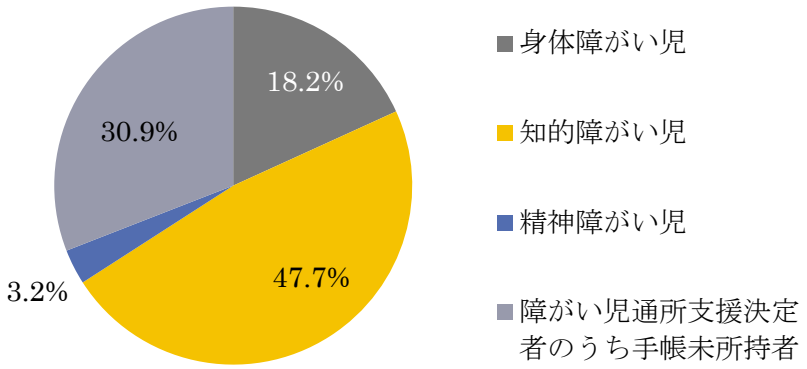
障がい児の状況

令和２年４月１日現在、単位：人

身体障がい児	知的障がい児	精神障がい児	児童通所支援決定者のうち手帳未所持者	合計
103	270	18	175	566

資料：庁内資料

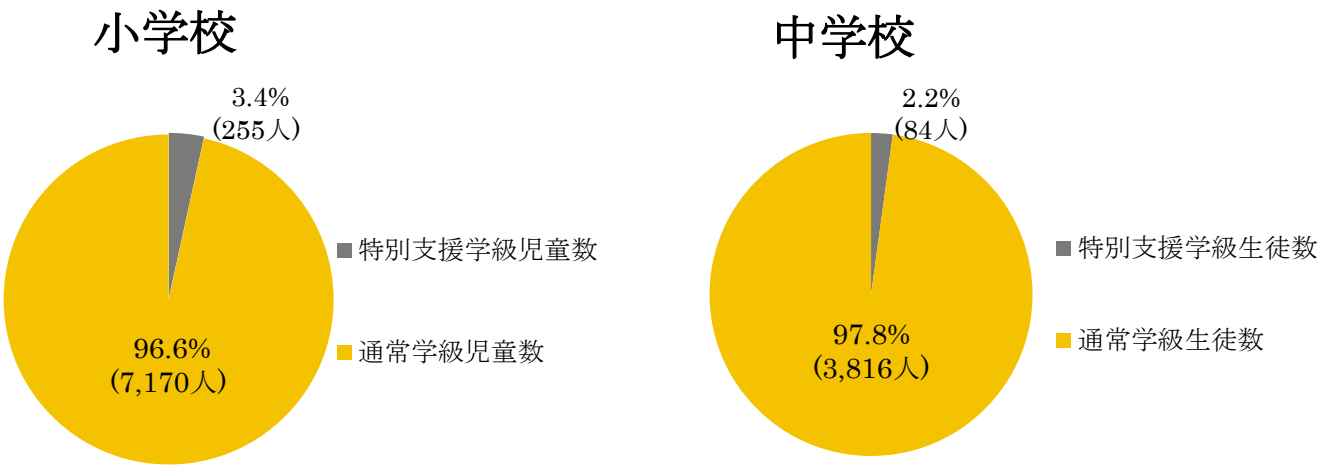
障がい児の障がいの種類別割合(令和２年度)



※ 障がい児数は、身体障害者手帳、療育手帳及び精神障害者保健福祉手帳の所持者（他の障がいと重複の人数を含む。）と障がい児通所支援支給決定者（手帳未所持者）の合計

高岡市立小学校・中学校・義務教育学校の特別支援学級在籍者数割合

令和２年５月１日現在



資料　高岡市オープンデータ「児童生徒数・学級数」

高岡市立小学校・中学校・義務教育学校の特別支援学級設置数

令和２年５月１日現在、単位：学級数

	知的障がい	自閉症 情緒障がい	肢体不自由	病弱	難聴	合計
小学校（25 校）	29	28	3	3	3	66
中学校（12 校）	13	11	0	0	1	25
合計	42	39	3	3	3	91

資料：庁内資料

※小学校には義務教育学校の前期課程を含む。

※中学校には義務教育学校の後期課程を含む。

（５）障害支援区分認定者の状況

障害支援区分は、障がいのある人の障がいの多様な特性、その他心身の状態に応じて必要とされる標準的な支援の度合いを総合的に示すものです。

障がい種別にみると、知的障がい者の認定者が最も多く 344 人で、全体の 57.7%を占めています。精神障がい者では、区分２が 56.7%と最も多くなっています。

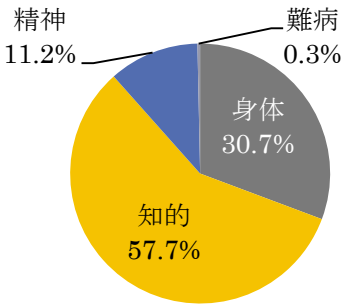
障害支援区分別の認定状況（障がい種別）

令和２年３月 31 日現在　単位：人

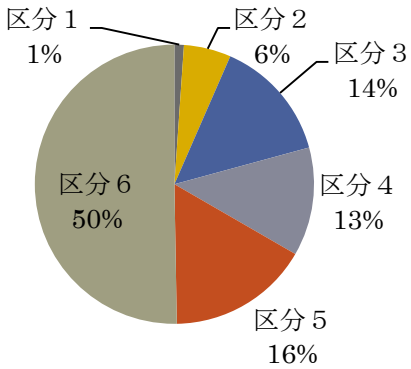
	区分１	区分２	区分３	区分４	区分５	区分６	合計
身体障がい者	2	10	26	23	30	92	183
知的障がい者	6	32	40	62	130	74	344
精神障がい者	6	38	17	6	0	0	67
難病	0	0	1	0	1	0	2
合計	14	80	84	91	161	166	596

軽度 ⟷ 重度

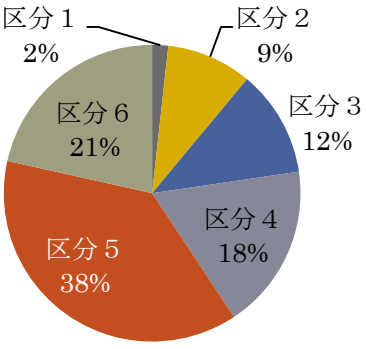
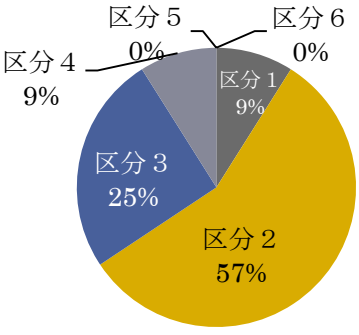
障がい別の割合



身体



知的



精神